

p.2～3 campus

キャンパスアーカイブ
2012年9月～2013年2月の
出来事

p.4 activity

学生たちが
多彩に活躍
クラブ・サークル活動報告

p.5 campus

平成24年度の出来事
Campus Archive

p.6 communication

～×^{かけ}翔る～
大学院生涯スポーツ学研究科
設置準備室長 川初 清典 × 大学院生涯スポーツ学研究科
設置準備室副室長 山本 敬三

2013年3月の行事予定

学長ごあいさつ

学園一丸、
明日へ翔^{かけ}よう、
未来へ挑もう。

教職員の協働により、
学生が将来へと「翔^{かけ}」る道を
さらに充実させます。



北翔大学 学長
相内 眞子

景気回復の兆しが見え始めているものの、
まだまだ先行き不透明だと言わざるを得ない昨今、
本学園では時代の荒波を乗り越えていくため、
常日頃から教育改革の議論を活発に行っています。
年度末のこの時期、1年間の総括と次年度以降の展望を
相内眞子大学学長と齊藤徹短期大学部学長に伺いました。

学生の「挑」戦を支える
多様な場づくりへ、
短大は挑み続けます。



北翔大学短期大学部 学長
齊藤 徹

■今年度を振り返って
学生募集は年々厳しさを増しています。今年度も学部・学科によって入学者数にかなりの開きがあり、教育課程を見直し、教育資源を再編成する必要について、教授会にも理事会にも訴えてまいりました。そうした中でも、完成年度を迎えた生涯スポーツ学部は順調かつ堅調であり、次年度には本道初のスポーツ系大学院「生涯スポーツ学研究科」を開設する運びとなりました。

■来年度以降、取り組むべき課題や展望
教育重点大学としての原点を再確認し、学生諸君の学習意欲を刺激し支える体制を強化してまいります。現在も先生方の熱心なご指導で、教員採用試験や難関の資格試験に挑戦し合格する学生諸君が多数出ておりますが、こうした挑戦を支える基礎学力の充実とキャリア意識の醸成に、さらに注力してまいります。

■学生諸君へ
どの学年の諸君も、入学してからの年月は、あつという間に過ぎてしまったことでしょう。何が楽しく、何が悲しく、何が苦しかったかを振り返り、その経験を大切に、これからの北翔生活を充実させましょう。どんな経験も、成長の力になるはず。そしてそれを愛しく思えるのなら、それが成長の証です。

■今年度を振り返って
学生時代に「やりたこと」に挑戦し、やり遂げたと自信を持つことが、将来の力になります。本学は、伝統的に率先して物事に取り組み学生諸君の活躍が光り、24年度も多様な分野で学生たちが躍動しました。

■来年度以降、取り組むべき課題や展望
制作、インターンシップ、こどもの国づくりクラブ活動、舞台・音楽の公演やファッション・研究の発表など、学生諸君の挑戦が続いています。

■保護者、卒業生、地域の皆様へ
活用してください。学生同士でのアイデアづくりやチームづくりがよい経験となり、将来への力になります。

北翔大学 寄付金募集のご案内

本学では、このところの経済不況により就学の継続が困難な学生が増加しており、学生への支援とあわせて、良質な教育環境を今後も維持していくために、寄付金を募集しています。

ご支援を賜りました寄付金は有効に活用させていただき、有能な人材の輩出、社会に役立つ研究成果を通して、広く社会に還元し、貢献してまいります。

ご寄付をいただいた金額に税制上の優遇措置を受けることができますので、企業等法人及び個人の皆さまのご支援、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

[募集期間] 平成26年6月まで(常時受け入れさせていただきます)

お問い合わせは企画部企画広報課まで
詳細は本学ホームページ
<http://www.hokusho-u.ac.jp>をご覧ください。

教育理念

「愛と和と英知」

学校法人浅井学園は、人間関係の基本として大切な「愛」と「和」を教育理念に掲げて70年の歴史を刻んできました。近年、大学としてさらに「英知」を加え、確かな知識に裏打ちされた教育の拠点を目指しています。

愛 人間の存在とその価値を認め尊敬していきたいと願う温かな心情、誠実、真心。地球規模での人類の発展と平和を願い、共生社会に生きる人間の育成。

和 互いの違いを理解したうえで取り結ばれる平和を希求する心、友情、協調性。他者への深い理解と柔軟で寛容な精神の育成。

英知 深遠な道理を探求し、深い知性、実践的な知恵。真の実在や心理を捉えることのできる認識力・実践力の育成。

建学の精神

「女性の社会的地位の向上を目指し、女性にふさわしい職業的技能と幅広い教養を身につけた、自立できる社会人の育成」

本学の建学の精神は、自立の手段を持たず狭い社会に閉じ込められていた女性の、職業的技能と教養を身につけることを目指すという当時としては「時代を先取りする精神」をもっていました。社会は大きく変わり、今日、女性に限らず一人一人が人間として幅広い教養を身につけ、自律的な社会人を育成していくことが求められています。本学は、時代を先取りする精神性を現在に生かし、新たな共生社会の創造をめざし、現代人にふさわしい専門的実践能力を身につけた「時代を切り開く人材」の育成をめざします。

キャンパス・アーカイブ 2012年9月～2013年2月の出来事

多様な背景をもつ学生支援を FD/SD研修会で追究

昨年11月19日、本学では『第3回FD/SD研修会』を16時30分から18時までの1時間半にわたって実施。「こころとそだちのクリニックむすびめ」の院長である田中康



雄先生をお迎えし、「多様な背景をもつ学生支援について」と題した講演が行われました。講演内容は、次の4つのテーマによって構成されていました。

- 1 発達障害などの背景をもつ方が受診するクリニックとは？
- 2 本人、家族が医療への不信をもっている場合の対応
- 3 他者への攻撃的な行動を有する学生への支援の仕方
- 4 多様な背景をもつ高等教育学生の支援について



また、最後には「発達障害傾向のある大学生・青年と親の支援について」というまとめがありました。講演には71名の教職員が参加し、終了後には多くの質問も飛び交うなど、大盛況の研修会となりました。

大学院生涯スポーツ学研究科 平成25年度より始動！

北翔大学大学院生涯スポーツ学研究科生涯スポーツ専攻（修士課程）の設置認可申請が、昨年11月8日付で認可となり、文部科学省より認可書が送付されました。創設費約8千万円をかけた本研究科は「生涯スポーツ学」を追求する大学院研究科となっており、今年4月の開設に向けて準備中です。



院生研究室はカレッジホールPAL3階の歯科医院跡をリニューアルし、院生ゼミ室（2室）は7号棟3階に整備されます。また、7号棟2階に整備される院生の多目的実習室には、「リアルタイム3次元動作解析システム」や「負荷心電図装置」、「多用途生体情報計測システム」、「サー



モグラフィ装置」、「エアロモタ」を新規に購入し、大学院として質の高い教育研究活動が展開できる体制が整備されます。研究科の設置準備室長である川初清典教授は、「この研究科では生涯スポーツの進展に向けて、高い実践・研究能力を有する指導的役割を果たす人材を養成します。修了生達は将来、



積雪寒冷圏におけるスポーツ科学・文化を発展させ、より豊かなスポーツライフを享受できる生涯スポーツ社会の発展に貢献してくれるでしょう。そのために優秀なスタッフと高度な教育研究環境を整備しました。」と話す。

本研究科の開設が生涯スポーツ社会の発展に寄与してくれることを願ってやみません。

〔応用教育研究領域(3分野)〕

スポーツ科学 教育研究分野 スポーツ動作の 理論化	応用健康科学 教育研究分野 健康づくりの 理論化と実践	スポーツ教育学 教育研究分野 スポーツ指導法の 体系化
------------------------------------	--------------------------------------	--------------------------------------

〔基礎教育領域〕

水雪寒冷圏における生涯スポーツの基礎理論

ワークショップをのぞいてみよう！



保健センター・学生相談室では、年に数回いろいろなワークショップを開いています。

新学期は、新入生を中心に独り暮らしを応援するワークショップを開き大学の近辺の買い物や病院の情報マップにして配布しています。学生相談室からは、ストレスをチェックして緊張をほぐすワークショップや心理テスト体験として自分の性格を知ろうというワークショップを開いています。

北翔大学 保健センター (PAL3階)
電話：011-387-3984

北翔大学 学生相談室 (PAL3階)
電話：011-387-9154

Email: gakuso@hokusho-u.ac.jp

ボランティア活動をしようとしている 学生の皆さんへ

本学では、学生の皆さんのボランティア活動の機会を提供と、あわせて大学が地域貢献の役割を果たすため、エクステンションセンターが中心となってボランティア活動支援を行っています。震災ボランティア活動には同窓会からの旅費支援があります。



北翔大学エクステンションセンター
(1号棟1階来客玄関ホール横)
電話：011-387-3939
FAX：011-387-3746
Email: kouzacen@hokusho-u.ac.jp

ボランティア活動希望者は、左記までご連絡いただくか、直接お申し出ください。

韓国・培花女子大学へ 学生11名が訪問研修



ぶ学生たちとの授業交流を大学内で、さらには学外研修として大学付属の培花幼稚園に訪問し、園児たちと交流しました。

期間中は培花女子大学の皆さんの温かいおもてなしを受け、学生宅でのホームステイでは家族と交流することもできました。このほか民俗村や東大門、ソウルワールドカップ競技場の見学、



昨年11月7日から13日まで、本学の学生11名が韓国の交流協定校である培花女子大学で研修を行いました。韓国料理の調理実習や伝統衣装の着付実習、金箔実習などを通して伝統文化とふれあい、一般的な観光旅行では得難い体験をしました。また、韓国で日本語を学

伝統舞踊の観覧など、非常に多くの体験をしてきたようです。楽しく充実した1週間を過ごした学生たちは、その感動的な体験と研修の成果を11月29日の帰国報告会で発表しました。接した韓国の学生は日本語が上手でフレンドリー、日本のことをよく知っていることに、本学の学生たちは驚き、感激したようです。また、自分の国のことをしっかり知ることの大切さを課題にしている



学生もいました。この経験を大切にして、よりいっそうの活躍を期待しています。



短期大学部ニュース

キャリアデザイン演習2012について

「キャリアデザイン演習」は、道内外の様々な業種・職種で活躍する講師の生き方・考え方を通して、現代社会の理解と就職に対する姿勢を見つめ直し、受講生のキャリアをデザインするための講座です。2012年度の講師14人があげたタイトルを振り返ると、「2008年以降の就職戦線」、「飲食ビジネスの海外進出と文化の違い」、「銀行と人々との関わり」、「テレビ等映像現場で学んだ仕事の心構え」、「コミュニケーションの重要性」、「愛の箇・その根源にあるもの」、「演劇ワークショップを体験してコミュニケーションについて考えよう」、「主婦の視点を活かしたソーシャルビジネス」、「地域の免疫力を上げる漢方型メディア」、「直ぐそこにあるあなたの役割」、「経済のグローバル化の進展と日本的経営～自己分析と就活」、「農業から見た歴史観」、「政治家の仕事って何だろう?」、「ブータン流 幸せ」です。受講しごえ十分な内容でした。



生涯スポーツ学部ニュース

第1期生が多くの難関資格を現役で合格し卒業します —保健体育科教諭、健康運動指導士、アスレティックトレーナーなど—

生涯スポーツ学部スポーツ教育学科第1期生が、現役で多くの資格を取得して卒業します。教職関係では中学校保健体育教諭2名、特別支援学校教諭2名の合計4名が現役で合格しました。地域や医療機関で健康づくりのための運動指導を行う「健康運動指導士」（11月試験）は4名が合格し、全国の課程認定校の平均合格率65%を上回り、80%の合格率でした。競技者の障害予防やトレーニング指導を行う「アスレティックトレーナー」の1次試験に1名が見事難関を突破し合格しました。2月に2次の実技論述試験を終了しており発表を待っています。日本体育協会公認スポーツ指導者I・II・IIIは63名、障害者スポーツ指導員15名、キャンプディレクター2級（マネジメントディレクター）10名、キャンプインストラクター29名、レクリエーションコーディネーター1名、レクリエーションインストラクター13名と多くの学生が生涯スポーツに関する資格を取得しました。これからの社会での活躍に大いに期待いたします。



Give Me Five!

Club, Circle and Other Activities

クラブ・サークル・学生達の活躍

吹奏楽団

全国大会銀賞！
福島の小中学校も訪問



場し、金賞を受賞。それによつて出場権を獲得した『第60回全日本吹奏楽コンクール 大学の部』（10月27日／栃木県・宇都宮市文化会館）では見事銀賞を受賞しました。

同コンクール出場直前には、福島県南相馬市の大甕（おおみか）小学校へ。同校とは、「昨年と昨年、本学と本学同窓会・淑翠会がタイアップして実施した『夏休み北海道リフレッシュプログラム』に参加していただいたご縁があり、今度は本学が同校を訪問することになったのです。

北翔大学吹奏楽団は昨年9月1日、札幌コンサートホール・キタラで開催された『第57回北海道吹奏楽コンクール 大学A編成の部』に出

陸上競技部

新記録、続々！
今季5大ニュース



男子100m 信清、初の全国へ

昨年7月に釧路で開催された『第85回北海道陸上競技選手権大会』で、信清有斗さん（スポーツ教育学科4年）が男子100mで10秒68で優勝。9月開催の日本インカレに念願の初出場を果たしました。同じく9月の『第41回北海道学生陸上競技選手権』でも初優勝を飾りました。

吹奏楽団は「さんぽ」や「マル・マル・モリ・モリ」などを演奏し、子どもたちも一緒に歌ったり踊ったりして楽しんでくれたようです。また、同校の校歌を演奏するというスペシャルプレゼントも披露しました。

最後に手づくりの金メダルをプレゼントされて大感激だった楽団員たち。子どもたちやホテルの方々、OB・OGなど、激励してくれた多くの方に支えられていることに感謝して全力を出しきったことが、コンクール銀賞につながりました。

女子走幅跳 平加、6m23の大ジャンプ！

昨年7月に札幌で開催された『第25回南部忠平記念陸上競技大会』で、平加有梨奈さん（スポーツ教育学科3年）が優勝し、自身もつ北海道記録と北海道学生記録更新。同記録は今季の日本ランキング6位、日本学生ランキング3位です。

○競歩 伊藤、世界陸上標準記録に肉薄！
昨年10月に山形県で開催された『第51回全日本競歩高島大会』で、伊藤佑樹さん（人間総合学科2年）が男子20km競歩に出場し、自身の北海道学生記録を更新して9位に。また、10000m競歩でも自らの北海道学生記録を更新しました。

女子1600mリレー 念願の標準記録突破！

昨年7月に宮城県で開催された『第34回北日本学生陸上競技対校選手権大会』にて、女子1600mリレーで3分51秒01をマーク。北海道記録および北海道学生新記録を樹立しました。道内の大学では日本学生陸上競技選手権大会で優勝し、6位入賞しました。

○円盤投 今、日本ジュニア選手権6位！
昨年10月に愛知県で



日本クラシック音楽コンクール

オーボエ部門で
第三位受賞！



昨年12月13日、東京・葛飾シフォートビルズに全国各地の代表が集い、『第22回日本クラシック音楽コンクール全

本インカレ標準記録を初突破しました。

1走 平加有梨奈
（スポーツ教育学科3年）
2走 山谷有里紗
（学習・心理学学科4年）
3走 岸部昌江
（スポーツ教育学科4年）
4走 剣持明那
（スポーツ教育学科3年）

スキー部

ジャンプ、雪印
メグミルク杯で優勝！



1月5日、宮の森ジャンプ競技場（ヒルサイズ100m）で開催された『第54回雪印メグミルク

国大会」が開催されました。

そのオーボエ部門・大学女子の部にて、芸術メディア学科・音楽コース4年の橋本理花さんが見事第3位を受賞しました。

橋本さんは現在、本学非常勤講師である岩崎弘昌先生にオーボエを師事しており、学内外を問わず積極的な演奏活動を展開しています。今回の受賞を経て、将来が楽しみな若手音楽家の一人として今後の活躍に期待が高まります。



杯全日本ジャンプ大会」にて、スポーツ教育学科3年の細田将太郎さんが優勝を果たしました。

この雪印メグミルク杯は新年最初に行われる大会で、過去には多くのオリンピックメダリストたちが優勝を飾ってきました。

細田さんは、1本目に95・5mを飛んでトップに立ち、2本目も90・5mでトップをキープして優勝しました。また、1本目の飛距離はこの日の最長不倒賞となりました。

男子バスケットボール部

2年ぶりに
1部リーグへ昇格！



男子バスケットボール部は、昨年10月6～21日に開催された『北海道大学バスケットボール選手権大会（男子2部）』で、6勝1敗の第2位と

北翔アンビエント

学生FDの取り組みを
学内外に紹介

1月23日の『第4回FD/SD研修会』で、昨年度4月に発足した学生FD「北翔アンビエント」の活動報告会が開催され、他大学の学生や本学教職員が多数参加しました。

当日は、12名の学生スタッフにより、発足からの経過や、学内の「翔タイム」での活動内容が報告されました。また、他大学との交流として



いう成績を記録しました。その結果を受けて、10月28日に本学で開催された北海道工業大学（1部7位）との入替戦に進出し、86対62のスコアで勝利を収め、見事2年ぶりの1部リーグ復帰を決めました。

2・3年生中心の若いチームということもあり、来年度は全国大会出場をめざして挑戦したいと意気込んでいます。また、今回の大会では、保護者の皆さまからたくさんのお声援をいただき、誠にありがとうございます。

男子バスケットボール部は、昨年10月6～21日に開催された『北海道大学バスケットボール選手権大会（男子2部）』で、6勝1敗の第2位と



札幌大学での学生FD会議「ツバトーク」や、京都で開催された学生FDサミットなどの参加報告が行われました。

委員長の白木啓太さん（学習・心理学学科3年）は、「最初は不明な点も多かったが、今は楽しさを感じている。全員で大学を盛り上げていきたい」と、今後の抱負を語っていました。

本学の学生FDの取り組みが「アンビエント」（環境光という意味）となるように、大学の空気のような存在として浸透していくことを期待しています。

図書館は今～学生スタッフの学外活動を追う～

閲覧室やカウンターで黙々と働き、新入生オリエンテーションの案内役でもお馴染みの図書館学生スタッフ。昨年12月、学外での活動が際立ちました。

20日、市川薫さん（芸術メディア学科4年）は室蘭市民会館で野田秀樹作の一人芝居『売り言葉』を演じました。1人4役、2時間の舞台です。出身地室蘭での公演に先立ち、青山剛市長を表敬訪問して地元への愛着と演劇への情熱を伝え、北海道新聞（1日朝刊）と室蘭民報（11月21日夕刊）でも大きく取り上げられました。当日は母校の室蘭清水丘高校演劇部の応援、地元市民の温かい拍手に胸も目頭も熱くなりました。卒業後はプロの役者をめざすという市川さん。北海道民、北翔大生、図書館スタッフと



室蘭公演



カウンターもステージ！

合わせて4役の活躍でした。

21日、木下優作さん（学習・心理学学科3年）は江別市立文京台小学校で落語『饅頭怖い』を演じました。3年生の「総合的な学習の時間」に招かれたのですが、きっかけは北翔祭の図書館企画「ラーニング・コモンズ寄席」でした。一昨年に『火焰太鼓』を、昨年には『寝床』を演じて話題になり、それが縁で実現しました。同小学校の担任教諭は落語通で、児童たちも日ごろから教材として親しんでいる落語に興味津々。特別支援学校の教員をめざす木下さんにとって貴重な経験になりました。年が明けて1月11日、短期大学部開講の「プレゼンテーション実習」でも披露し、25日は公開授業となった同実習で、教壇を高座に変えて熱演しました。



文京台小学校で児童たちと



本学公開授業



2013年1月校舎移転
DOREMEは
新しくスタートしました

MODE COLLECTION 12.8^{sat}

テーマ
next.



北海道ドレスメーカー学院

<http://www.doreme.ac.jp/> ドレメ最新情報 ブログ更新中!

北海道初のスポーツ系研究科開設！

いよいよ今年春より、北翔大学大学院生涯スポーツ学研究科生涯スポーツ学専攻（修士課程）が、北海道初のスポーツ系研究科としてスタートします。今回は、同研究科の設置準備や認可申請において尽力された生涯スポーツ学部の川初清典教授（設置準備室長）と、同学部の山本敬三准教授（同副室長）に、その理念や展望について語っていただきました。

生涯スポーツ学、その必要性

——おふたりは、本学に就任される以前からご親交があつたのでしょうか？

山本 はい。十数年前にな

りますが、私が北海道大学大学院の博士課程にいた当時、川初先生も北大にいら

しゃいまして、私の指導教員を担当していただいていたと

——では、今回は師弟コンビで本学園の新たな道を切り開く先導をしていただいたのですね。

山本 川初先生に指揮をとっていただき、教職員が連携して何とか開設にこぎつけることができました。

川初 「生涯スポーツ学研究科」というのは、北海道どころか、日本にも、世界にもどこにもありません。その点で「これは何なのか」ということを文科省はじめ関係各所へご理解いただくプロセスに

は苦労もありました。今はひと安心して、初年度の準備を進めているところです。

——この「生涯スポーツ学」というものをわかりやすく、ご説明願います。

山本 健康の保持・増進やレクリエーションを目的に、生涯を通じてスポーツを楽しむことを「生涯スポーツ」と呼びます。このことについて理論体系化する学問が「生涯スポーツ学」ということになり

ます。具体的には、傷害や外傷を予防し、効率的な運動効果を得られるようなスポーツ活動を教育・研究します。また、競技スポーツに対

しては、スポーツ科学的観点からアスリートの競技力サポートを行います。更にアスリートのセカンドキャリアにつながる教育研究を行います。

川初 「生涯学習学」のスポーツに特化した領域とお考えください。

——研究科の設置にはどのような動機が？

山本 やはり、北海道にはスポーツ系の大学院研究科がなかったということがスタート地点でした。北海道をはじめとした降雪・寒冷地域でのスポーツ活動における科学的なエビデンス（証拠・根拠）を研究する人材がほとんどいな

い中で、この研究科がそいつた知の発信源として機能するように育っていきたく考えています。

川初 一方で、「生涯」と付くぐらいですから、高齢化社会になったという側面も大きな要素です。昨年、厚労省が「人生90年時代」という言葉を提唱しました。それまでは「人生80年時代」と言

われていた。これからは90歳まで生きるのが当たり前という時代なのです。そんななか、世の中では医療費抑制とか、塩分は控えめにとか、メタボになるから食べ過ぎるなとか、「あれをするな」ばか

～× 翔る～
「一とともに創る、学園の明日」

大学院生涯スポーツ学研究科
設置準備室長
(平成25年4月～研究科長 予定)

川初 清典

大学院生涯スポーツ学研究科
設置準備室副室長

山本 敬三



profile

川初清典 Kiyonori Kawahatsu

北翔大学北方圏生涯スポーツ研究センター・センター長として、学内での教育・研究活動をはじめ、学外では体育・スポーツの領域の学会・研究会で理事・評議員や審査員などの活動に従事。主な研究テーマは「北方圏の体力・健康づくり研究」と「心臓病のスポーツリハビリテーション」。前者では、その有効な運動・スポーツ手法の開発・普及研究を行っている。後者では、社会医療法人北海道循環器病院理事、心臓リハビリセンター・センター長として、メタボリック・シンドロームの行き着く果ての心臓病を予防するため、スポーツ手法を応用する研究を実践的に進めている。

山本敬三 Keizo Yamamoto

北海道大学大学院工学研究科システム情報工学専攻にて博士後期課程を修了。博士(工学)。日本体育学会、日本バイオメカニクス学会などの学会、冬季スポーツ科学研究会や臨床歩行分析研究会などに所属。冬季スポーツにバイオメカニクスおよび流体力学的な手法でアプローチすることが主な研究テーマ。2007年12月にオーストリアで行われた第4回国際スキー会議にて、「スキージャンプ・テイクオフ動作の空気力学的解析」を発表し、若手研究者賞(2位)を受賞。現在はスキージャンプを対象とした力学測定や学術セミナーを積極的に実施し、現場のサポート活動を行っている。

りなんです。「もしやれ」というのは運動ぐらい。運動というのは副作用がないです。運動するうえで北海道の自然環境はとてつもない。これを活かしてスポーツで社会貢献していくというのが、この研究科の役割だと思っています。

新しい研究科がめざす形とは

——そのために、大学院生たちにはどのような指導を行っていく予定ですか？

山本 季節変化の大きい北海道で、一生涯を見据えたスポーツ活動を教育・研究する

るためには、さまざまな学問領域が複合的に連携を図ることが大切です。そのため、「基礎教育領域」と「応用教育研究領域」という2つの領域を配置し、大学院生が幅広い知識と専門性を修得できる教育体制を構築しました。応用教育研究領域は3つ用意しまして、スポーツ動作に係る「スポーツ科学教育研究分野」、健康づくりに係る「応用健康科学教育研究分野」、スポーツ指導法に係る「スポーツ教育学教育研究分野」となっています。

川初 研究科を受け持つ選任教員がグループをつくつて、広い意味で、大学院の存在価値というのはどのように捉えていますか？

川初 大学全入時代である現在は、大学を卒業すれば安泰だと言っていたころとは異なります。あるひとつの分野を本場に専門的に学んだと言える水準まで到達するためには、やはり大学院というものは視野に入れていかなければなりません。その意味でも、札幌圏、北海道圏の多くの人に開かれた大学院でありたいと思っています。それは学部卒の大学生だけではなく、すでに社会で活躍している方で、学び直しの意欲が出たという方もぜひ受け入れた

い。そういう方々のモチベーションは学部卒の若い人たちにきつという影響を与えてくれるはず。また、長い間勤め上げて、やっと時間にゆとりができたというシニアのみなさまにもご活用いただければと思います。遠隔地に住んでらっしゃる方に向けては、インターネットを利用して、イヤを整備し、北海道地域全体に貢献していきたいですね。

——では最後に、初年度に向けての意気込みをお聞かせください。

山本 今回の設置に向けて、先進的な設備・機器をいくつ

か導入しました。これらを活用しながら学びを深め、修了生たちには生涯スポーツの指導的な立場になつてもらいたいです。医科学的なビッグデータを持った有能なスポーツ指導者を、しっかりと責任を持つて育成していきたいです。

川初 研究科の教員が丸とあって、熱心に学生たちをクアアップしながら、山本先生が今お話しするような人材を数多く輩出すること、それによって北海道の元気にできる限り貢献していければ幸いです。

山本 本日はありがとうございました。

2013 年 3 月の行事予定

2013.3 March Event schedule

共 通 行 事 予 定		
3月	1日(金)	B日程・第4期編入試験・大学院 生涯スポーツ学研究科第2期学内公開(在学生立入禁止)
	2日(土)	B日程・第4期編入試験・大学院 生涯スポーツ学研究科第2期入学試験(在学生立入禁止)
	9日(土)	第4回オープンキャンパス(11:00受付スタート)
	19日(火)	学位記・修了証書授与式(11:00)

同窓会から

淑草会は支部活動に重点をおいています。

函館・釧路・旭川・北見・帯広・根室・みちのく南・みちのく北・関東・関西・韓国と11支部を有しています。

同じ地域に住む同窓生のネットワーク作りを目的に活動しています。多くの支部が年に一回会合を開き情報交換の場になっています。

今後の課題としては、若い会員(大学卒業者)の取り込みで、遠隔地で就職し頑張っている後輩を支えるための役割を果たして行きたいと思っています。



根室支部にて開かれたサケの缶詰作り挑戦

3.9(土) オープンキャンパス
11:00 受付スタート

春のオープンキャンパス開催のご案内

3月9日(土)に、今年度最後の第4回オープンキャンパスが開催されます。テーマは「笑顔のために、探す。」で、2014年・春からはじまる新学部・学科の全貌を初公開するほか、体験授業など目白押しの内容となっております。主に高校1・2年生を対象としておりますが、ご家族や身の回りの方で本学へ興味をお持ちの方には奮ってご参加くださるよう、ぜひお声がけをお願いいたします。道内21都市から無料送迎バスも運行いたします。学生スタッフ・教職員一同、多数のご参加を心よりお待ちしております。



合格
おめでとうございます

平成25年度
教員採用候補者選考検査
合格者数

58名

※1次合格者130名

御礼申し上げます

本学同窓会淑草会 より
11,550,000円のご寄付をいただきました。
(平成24年度)

株式会社インファーマシーズ より
200,000円のご寄付をいただきました。
(平成24年度)

北海道ハンディキャップ水泳大会
実行委員会 より
30,000円のご寄付をいただきました。
(平成24年度)

ご支援を賜りましたことを、
厚く御礼申し上げます。